

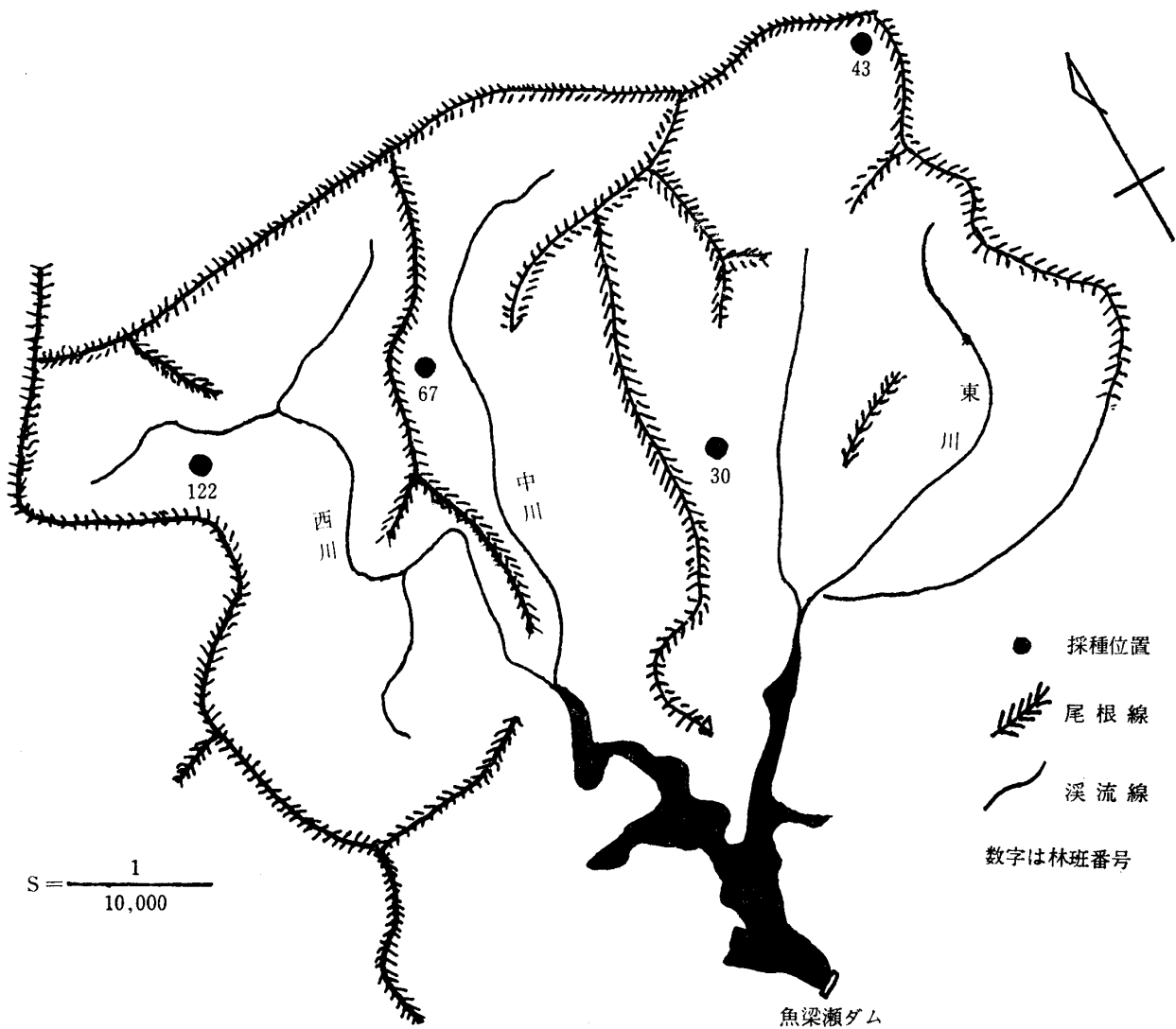
## 〔資料〕 次代の優良母樹選抜を主目的としたヤナセスギ試験林の設定

林 重佐\*・馬田英隆\*\*・前田利盛\*\*

## 目 的

昭和51年と52年の2カ年、魚梁瀬天然スギ林の調査に参画して、母樹別に採種する機会を得た。上記調査の結果によれば、魚梁瀬天然スギは、生育地域の中に遺伝的差がみられる<sup>1,2)</sup>。とすれば、天然林のあちこちで採種して得られた実生苗木で集団をつくれば、ヤナセスギの特性を備え持った遺伝力の高い林分が創成される筈である。

以上の点から、今回、ヤナセスギの高隈地域への適応試験を兼ね、次代の優良母樹選抜用育種集団造りを目的とした植栽をおこなったので資料として印刷に供する。



第1図 魚梁瀬天然スギ採種位置

\* 林学科森林育種保護講座

\*\* 高隈演習林

## 材 料

採種は昭和51年11月に現地で林重佐がおこなった。採種場所は高知県安芸郡馬路村の魚梁瀬国有林30, 43, 67, 122の4ヶ林班である(図1参照)。

採種母樹には林班番号を頭書した番号をつけ、これを家系番号とした。

昭和54年3月、植栽に供せられた家系別苗木本数は第1表のとおりである。

第1表 ヤナセスギ系統(母樹)別植栽本数

系統(母樹)番号		植 栽 本 数 (本)		
林班 No.	個体 No.	中核試験区	周辺区	合 計
30	— 61	36	204	240
	— 93	〃	207	243
	— 104	〃	447	483
	— 121	〃	185	221
43	— 1	〃	281	317
	— 2	〃	291	327
	— 5	〃	307	343
	— 6	〃	96	132
	— 26	〃	179	215
	— 40	〃	128	164
	— 48	〃	6	42
	— 49	〃	89	125
	— 51	〃	20	56
67	— 0	〃	239	275
	— 132	〃	0	36
122	— 203	〃	0	36
	— 214	〃	133	169
	— 215	〃	39	75
	— 217	〃	0	36
合 計		684	2,851	3,535

## 試験林の設定場所、形、植栽様式等

設定場所は鹿児島県垂水市海潟、鹿児島大学農学部附属高隈演習林7林班り小班内(図2参照)。

予定地の中央部に家系別列植の長方形をした中核試験区をつくり、その周辺を残りの苗木群で取囲む。そして将来、一般的に高隈に適応するのは、どの地区産のどの母樹の子供群であるかなどを中核試験区の分析によって知る。また、周辺の子供群を含めての次代の選抜用母材林とする。

## 設定要領

## 1. 中核試験区の位置、形及び大きさ

7林班り小班の中央沢より南東側の緩い平らな斜面に長辺を沢に平行に、130m×22mの長方形とした。

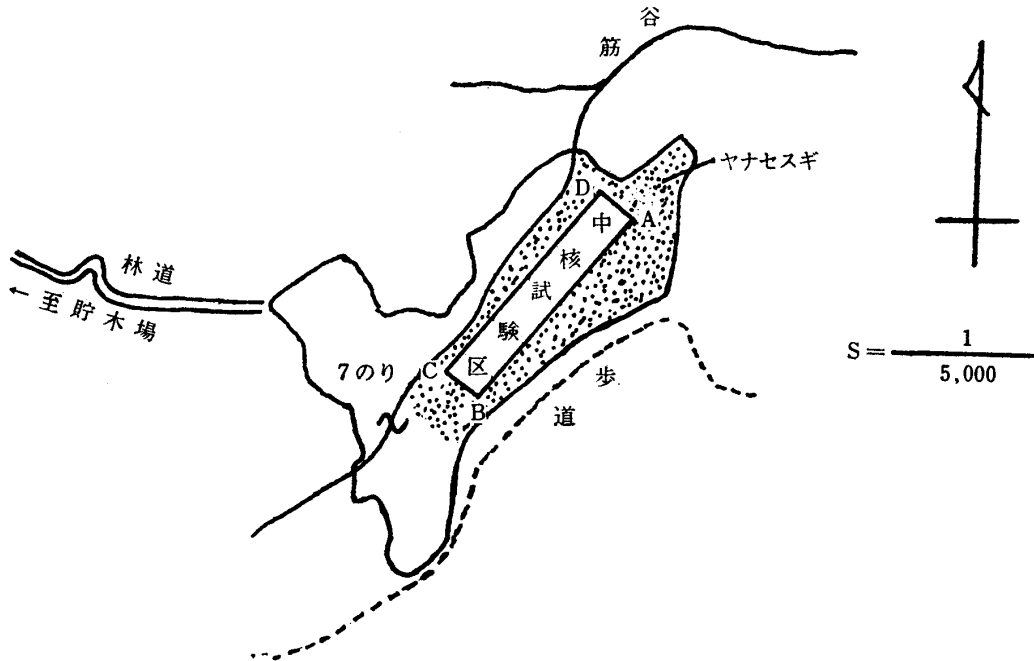
## 2. 植 栽

昭和54年3月、19家系を中核試験区AよりBへ3列づつ次の系統順に植栽した(1系統3列, 1列

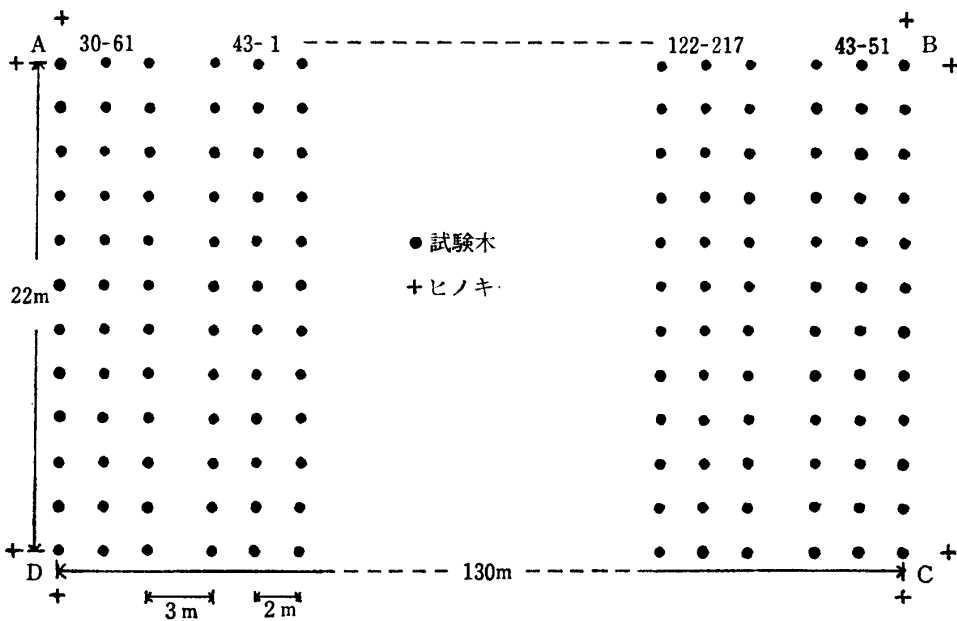
12本植，従って $12 \times 3 = 36$ 本/系統：図3参照）。

30-61, 43-1, 122-203, 43-2, 30-93, 43-5, 122-214, 43-6, 67-132, 67-0, 43-26, 30-104, 43-40, 122-215, 43-48, 30-121, 43-49, 122-217, 43-51,

系統内植栽間隔は2m, 系統間のそれは3mとした。



第2図 試験林の位置，形等



第3図 中核試験区植栽方式

### 3. 試験区内外の標識木

中核試験区の4つのコーナーに図-3の形式でヒノキを植栽した。ヤナセスギと同時植栽スギとの

間にもヒノキを植栽して区別した。

#### 今後の取扱について

この試験林は特別の取扱をする必要はない。但し、手入れ不行届にならないよう留意されたい。林木の生育状況を観察しながら適当な時期に調査をおこなう予定である。

#### 後 記

設定に際して分担した役割

計画 林 重佐

調整 馬田英隆

播種幼苗 宮下鉄夫

床替苗 前田利盛

植栽監督 前田利盛

採種に協力下さった魚梁瀬スギ天然林の遺伝子保存に関する調査研究者及び試験地設定に参画下さった演習林の皆様方に厚く御礼を申し上げます。

#### 参 考 文 献

- 1) 関西林木育種場四国支場：魚梁瀬スギ天然林の遺伝子保存に関する調査報告書，1978
- 2) 酒井寛一，林 重佐，岩神正朗，宮崎安貞：魚梁瀬スギ天然林の遺伝変異とその分布に関する研究，第89回日本林学会論文集，163～164，1978